



# 広瀬川 創生プラン

2025▶▶▶2034



令和7年7月

広瀬川創生プラン策定推進協議会  
仙台市



# 広瀬川 創生プラン

2025▶▶▶2034

## 目次

序章	広瀬川の魅力	1
1	広瀬川の特徴	3
2	広瀬川環境改善の取り組み	9
第1章	広瀬川創生プランとは	11
1	策定の背景と目的	13
2	広瀬川の範囲	15
3	計画の位置づけ	16
4	計画期間	17
第2章	目指す広瀬川の姿と目標	19
1	基本理念	21
2	基本目標と施策の方向	25
第3章	推進体制	35
1	推進体制	37
2	各主体の役割	38
3	活動の支援	39
第4章	推進状況の評価	41
1	1年ごとの取組状況の把握	43
2	計画期間ごとの推進状況の評価	44
参考資料		45
1	広瀬川創生プラン改定の検討過程	47
2	広瀬川に対する市民意識調査（概要）	49
3	広瀬川での活動団体へのアンケート調査（概要）	56
4	広瀬川創生プラン策定推進協議会委員名簿	57



# 序章

## 広瀬川の魅力

- 1 広瀬川の特徴
- 2 広瀬川環境改善の取組み



愛宕堰付近の広瀬川と仙台の街並み



郡山堰付近の広瀬川と仙台の街並み

## 1 広瀬川の特徴

広瀬川は次のような「流域の豊かな自然環境」、「都市部に位置する自然崖の壮大な景観」、「動植物の良好な生息環境」を有し、人々を引き寄せる潜在的な魅力があります。

### (1) 広瀬川と仙台のまち

広瀬川は、青葉区作並地区の関山峠付近を源流とし、若林区日辺地区で名取川に合流します。

名取川と合流するまで市域内で完結しており、その流域面積は市域面積のおよそ半分を占めています。

上流域には鳳鳴四十八滝などの景勝地や豊かな自然があり、さらに都市部が位置する中流域でも美しく壮大な自然崖や緑の景観を気軽に楽しむことができます。

日本の多くの都市が河川の下流域や河口域に発達していますが、仙台市の市街地は中流域の河岸段丘上に発達しているのが特徴です。

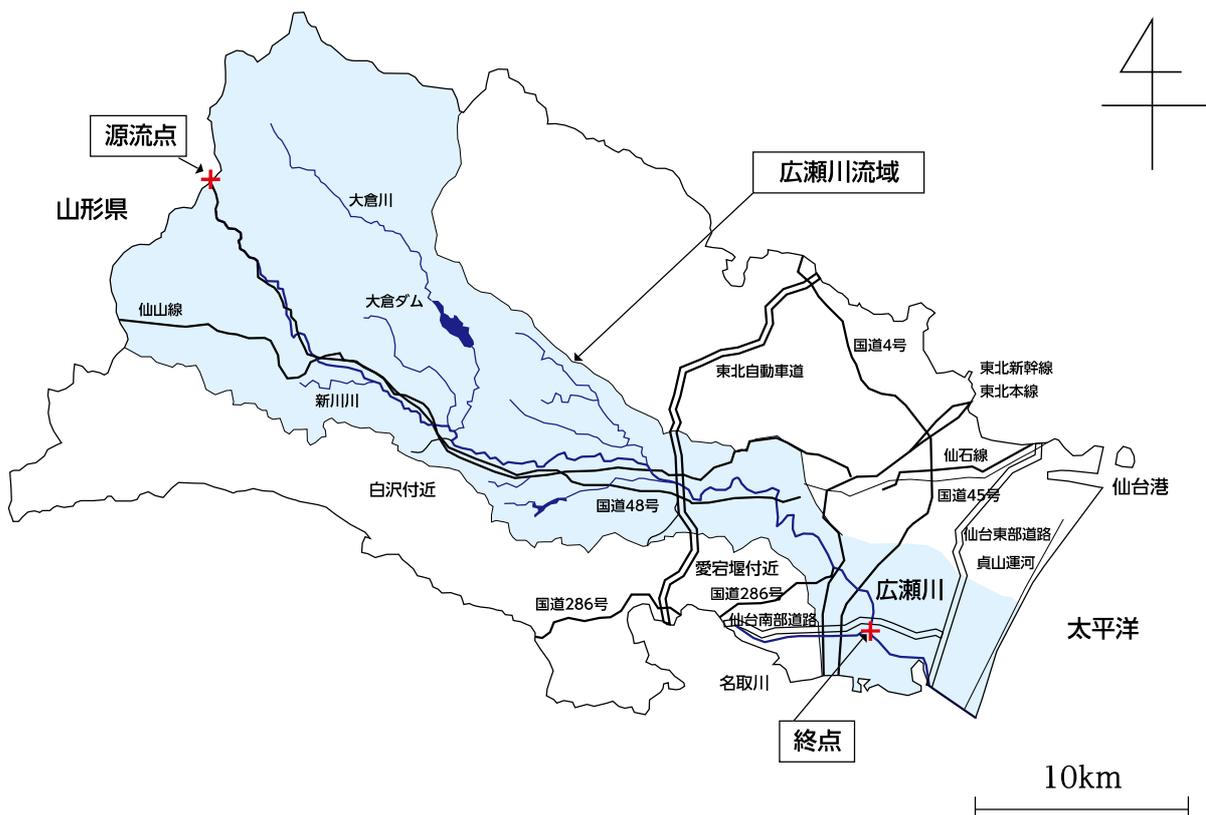
仙台藩祖である伊達政宗公が仙台城を居住地に選んだ理由には、南は竜の口溪谷、北は沢、西は奥行き深い山林、そして東は全面約60メートルの断崖で、その前を広瀬川が流れる天然の要害となっていることが理由のひとつとされています。

さらに、政宗公は河岸段丘の地形を巧みに利用し、広瀬川から四ツ谷用水を城下に導いたことで、仙台のまちの発展に大きく寄与しました。

68年の生涯を送った政宗公は、今もなお、広瀬川を見下ろす経ヶ峯で仙台を見守っています。

## 広瀬川の概要

水系	・名取川水系
種別	・一級河川
流路延長	・約 45km: 関山峠付近から名取川合流地点まで
流域面積	・約 311km <sup>2</sup>
規制等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広瀬川の清流を守る条例</li> <li>・仙台市屋外広告物条例</li> <li>・杜の都の風土を育む景観条例</li> <li>・杜の都の環境をつくる条例</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名水百選(環境省) / 「広瀬川」: 1985年</li> <li>・残したい日本の音風景 100選(環境省) / 「広瀬川のカジカガエルと野鳥」: 1996年</li> </ul>





①



②



③



④



⑤



⑥

① 中流域の自然崖（米ヶ袋付近） ② 広瀬川の上流端標柱 ③ 蛇行する広瀬川（川内付近） ④ 名取川広瀬川合流点付近（出典：空から見た広瀬川／仙台河川国道事務所HP） ⑤ 仙台橋（大橋）の擬宝珠（ぎぼし）：仙台市の指定・登録文化財（仙台市博物館所蔵）、擬宝珠には銘文「仙台橋 仙人橋下 河水千年 民安国泰 孰与堯天 慶長六年辛丑 臘月吉辰 藤原政宗 門士川嶋豊前守奉造」と刻まれる ⑥ 瑞鳳殿

## (2) 広瀬川の植物

関山峠付近を源流とする広瀬川は、名取川と合流するまでの間に、山地、丘陵地・台地、低地と地形が変化していく特性があり、これに伴う気候的な違いにより、広瀬川流域には多様な植生が分布しています。

山地が多い上流域では、この地帯の気候的極相林であるブナ林が広がっているほか、コナラやミズナラ等の落葉広葉樹の二次林があります。

中流域の丘陵地ではアカマツ、スギ、ヒノキ等の針葉樹の二次林が広がっています。自然崖ではケヤキ林が帯状に広がっており、青葉山ではこの地帯での気候的極相林であるモミ・イヌブナ林が見られます。

下流域の低地や台地にはコナラ、アカマツ、スギ、ヒノキ等の二次林が散在しています。



①



②



③



④



⑤



⑥

① 広瀬川源流 (クリ・ミズナラ群集)      ② 作並地区ブナ林 (チシマザサ-ブナ群団)      ③ 大倉ダム (クリ-コナラ群集)  
 ④ 広瀬川澱緑地对岸 (ケヤキ群落)      ⑤ 東北大学植物園 (モミ-イヌブナ群集)      ⑥ 大年寺山 (アカマツ群落、スギ・ヒノキ・サウラ植林)

### (3) 広瀬川の動物

広瀬川とその水辺は、多くの貴重な生物の良好な生息空間となっており、アユやサケをはじめとした魚類が約30種類、ヤマセミやカワセミなどの鳥類が約120種類、確認されています。

さらに日本の固有種であり、きれいな流水に棲むといわれるカジカガエルは、都市化による川の水質悪化に伴い一時は個体数が減少したものの、清流の復活とともに回復し、現在は上中流域でその美声が聞かれます。また、「残したい日本の音風景100選」（環境省）として「広瀬川のカジカガエルと野鳥」が選出されており、多くの生き物が生息する広瀬川は、自然に対する関心や、学びの機会を与えてくれます。



①



②



③



④



⑤



⑥

①モクズガニ（「カワラバン」提供写真）

②カワセミ

③ヤマセミ

④カジカガエル

⑤サケ

⑥アユ



① 仙台城跡から広瀬川を望む ② 大橋 ③ 三居沢 ④ 広瀬川灯ろう流し・光と水とコンサートの夕べ  
⑤ 広瀬川中河原緑地 ⑥ 広瀬川八本松緑地 ⑦ 宮沢緑地周辺を俯瞰する ⑧ 評定河原大露頭 ⑨ 賢淵  
⑩ 郡山堰 ⑪ 七郷堀としだれ桜

## 2 広瀬川の水質改善の取り組み

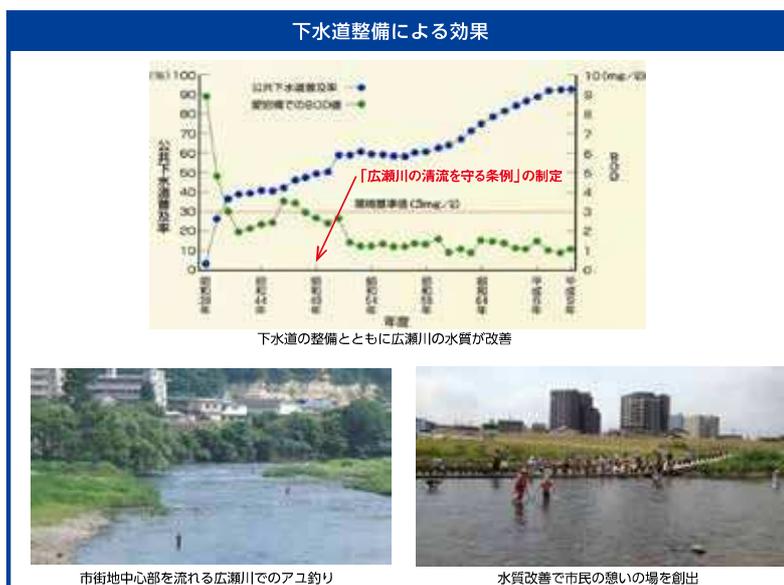
広瀬川は、古くから人々の生活を支え、都市の発展に貢献してきましたが、戦後の復興事業を終えると、経済成長とともに開発が進み、市内を流れる河川は、ごみの投棄や生活排水の流入など、深刻な環境問題を抱えるようになりました。

昭和37年（1962年）、仙台市が健康都市宣言を行い、課題であった生活環境の改善等に市民とともに取り組んできました。特に、水質の汚染が進んでいた梅田川において始まった、市民による清掃活動を皮切りに、やがて市内全域の河川浄化運動として、広瀬川を含む他の河川にも広がっていきました。また、杜の都のシンボルとしての風景や市民の憩いの場の創出を目指し、下水道の整備も並行して進めてきました。

こうした地域の環境改善活動は、市民と行政が協働で取り組んだ成功事例となり、昭和49年（1974年）の「広瀬川の清流を守る条例」の制定につながったほか、これまでの取り組みが認められ、昭和60年（1985年）には環境省が選定する「名水百選」にも選ばれております。

このように、市民と行政とが共通の目標を掲げて環境改善に取り組んできたことで、広瀬川は市民共有の財産となり、「仙台七夕花火祭」や「広瀬川灯ろう流し」といった行事のほか、散策や芋煮会など市民が気軽にレジャーを楽しめる川としても親しまれています。（10ページ\_写真①～④参照）

### 下水道整備による清流復活への取り組み



出典：下水道事業のストック効果事例／国土交通省



- ① 広瀬川灯ろう流し・光と水とコンサートの夕べ（8月／宮沢橋付近）
- ② 仙台七夕花火祭（8月／大橋付近）
- ③ 米ヶ袋周辺での芋煮会（9月～10月ごろ）
- ④ 牛越橋周辺での芋煮会（9月～10月ごろ）